

ADVANTEST.

第75回 定時株主総会

2017年6月27日

株式会社アドバンテスト

I 全般の状況

世界経済

- 米国 堅実な成長
- 全体として緩やかな経済成長

半導体関連市場

- スマートフォンの高機能化と販売台数の拡大
- 自動車の電装化の進展
- データセンター関連の部品需要の伸び

↓

2016年はプラス成長

ADVANTEST

2017/6/27 All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION 2

当期における世界経済は、堅調な米国経済などに支えられ、全体として回復基調が続きました。

半導体関連市場においては、スマートフォンの高機能化と販売台数の拡大、自動車の電装化の進展、データセンター関連の部品需要の伸びなどが牽引役となりました。その結果、2015年はマイナス成長だった半導体市場は、2016年はプラス成長に回復しました。

Ⅰ 全般の状況

非メモリ半導体

- スマートフォン、先端製造プロセス構築向けの設備投資が堅調

メモリ半導体

- データセンター、スマートフォンの需要によるメモリ市況の改善に伴い設備投資が加速

為替

- 前期より円高で推移
米ドル108円（前期121円）
ユーロ119円（前期133円）

ADVANTEST

2017/6/27

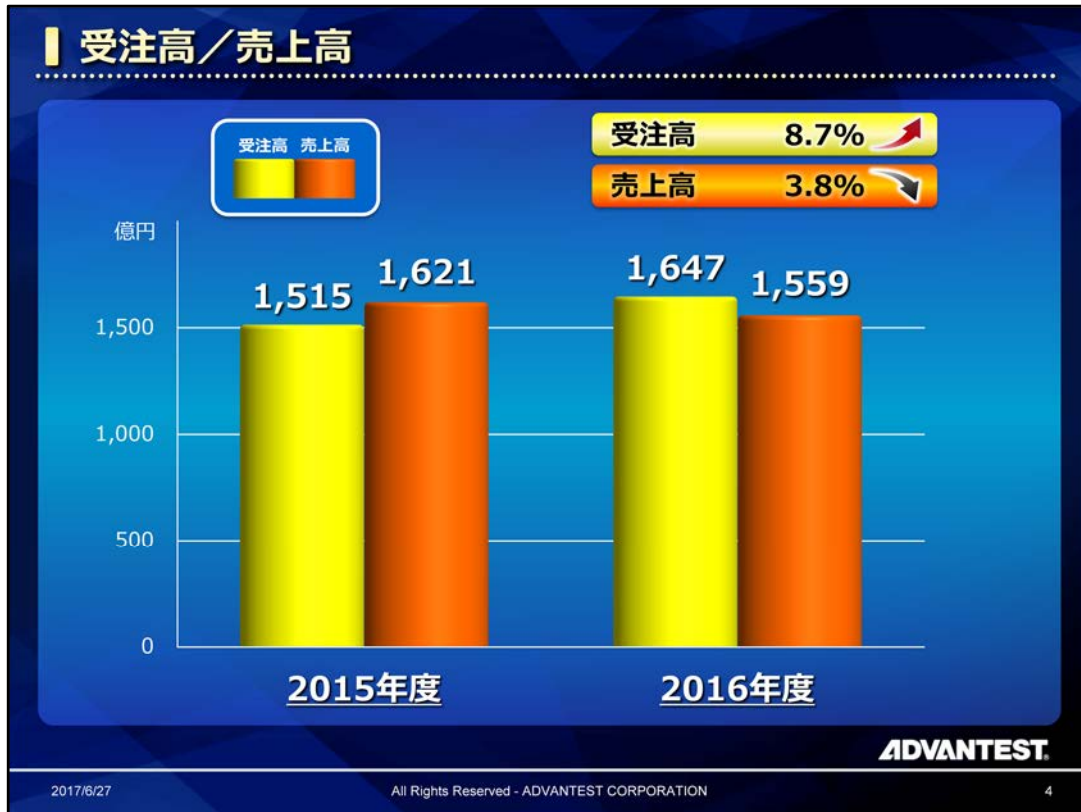
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

3

この流れに沿って、
ロジック半導体をはじめとする非メモリ半導体では、
スマートフォン向けの設備投資が進んだほか、
先端製造プロセスの構築に向けた設備投資も堅調でした。
メモリ半導体では、夏場以降、データセンター向けや
スマートフォン向けの需要を背景にメモリ市況が改善したことで、
メモリ半導体メーカーの設備投資が下期に加速しました。

また、当期の平均為替レートは、米ドルが108円、ユーロが119円と、
前期より円高で推移しました。

このような事業環境のもと、当社は、顧客の投資意欲が
大きく改善したメモリ半導体関連の新規需要獲得を中心に、
業績向上に向け取り組みました。



その結果、受注高は前期比8.7%増の1,647億円と、円高による減収影響を受けながらも前期を上回る実績を収めることができました。

売上高は、前期比3.8%減の1,559億円となりました。

営業利益／税引前利益／当期利益



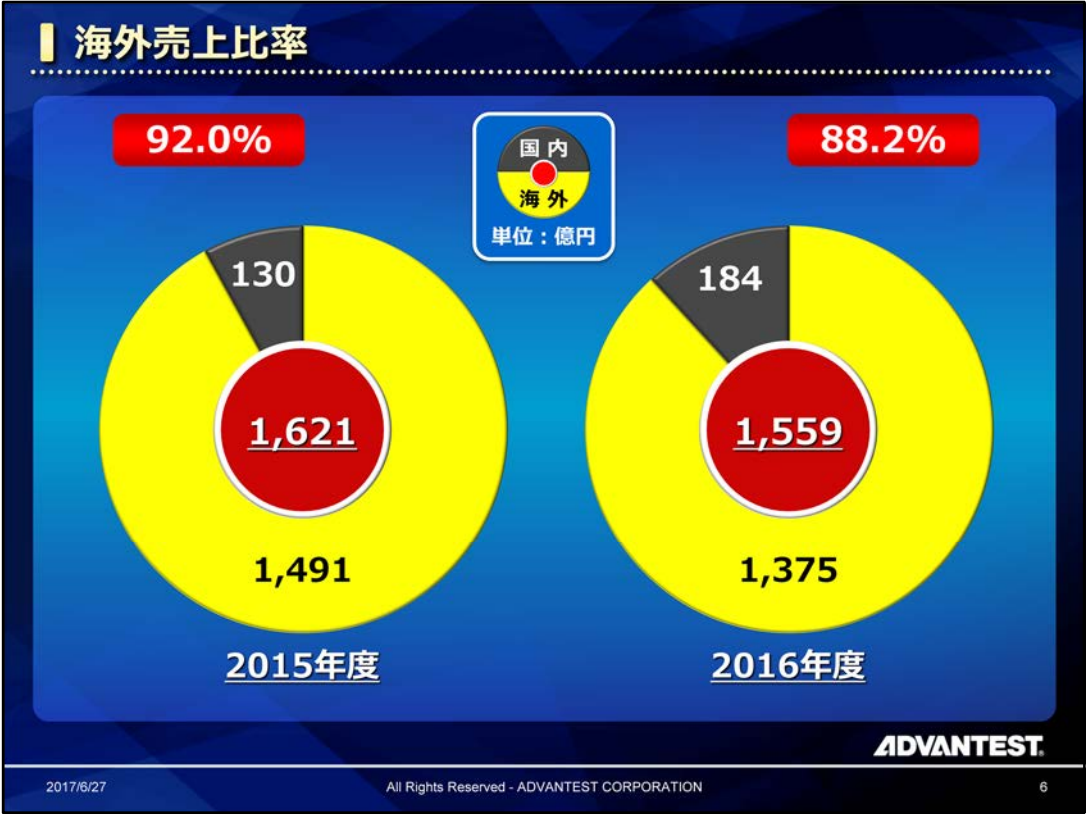
ADVANTEST

2017/6/27

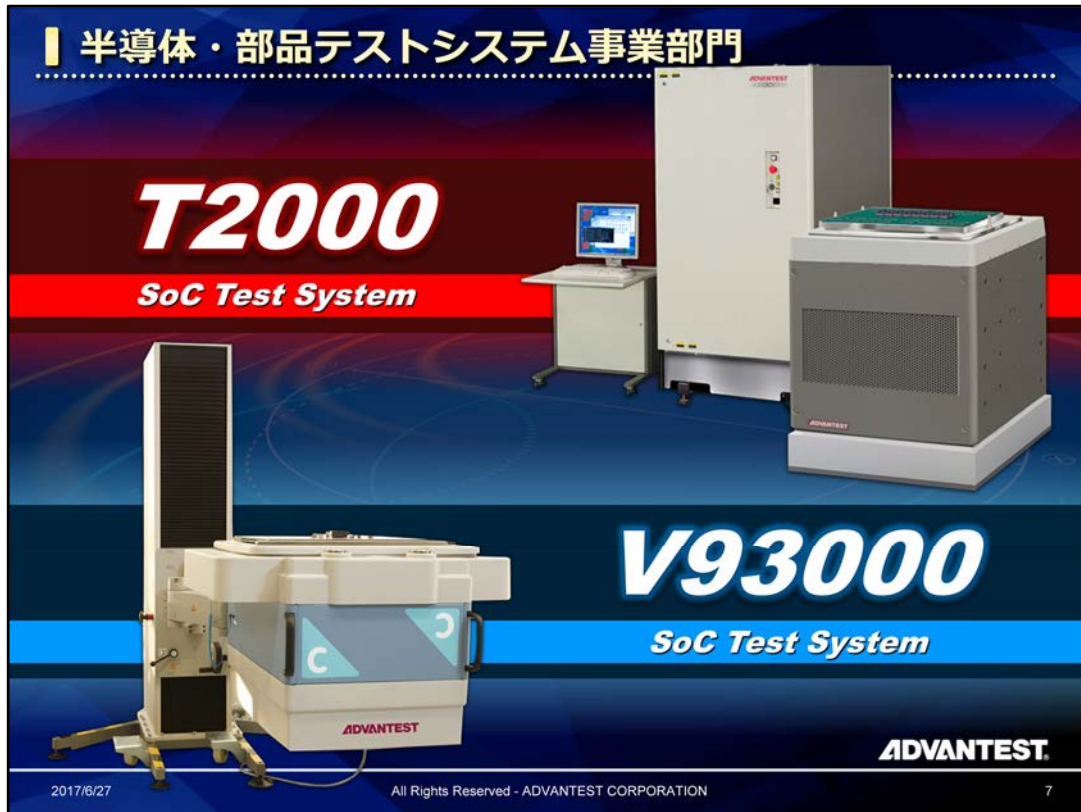
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

5

前期比減収となったものの、
採算性の良い製品の売上高比率が前期比で上昇したことで、
営業利益は前期比10.4%増の139億円、
税引前利益は前期比27.7%増の150億円、
当期利益は前期比112.1%増の142億円となりました。



海外売上比率は88.2%となりました。

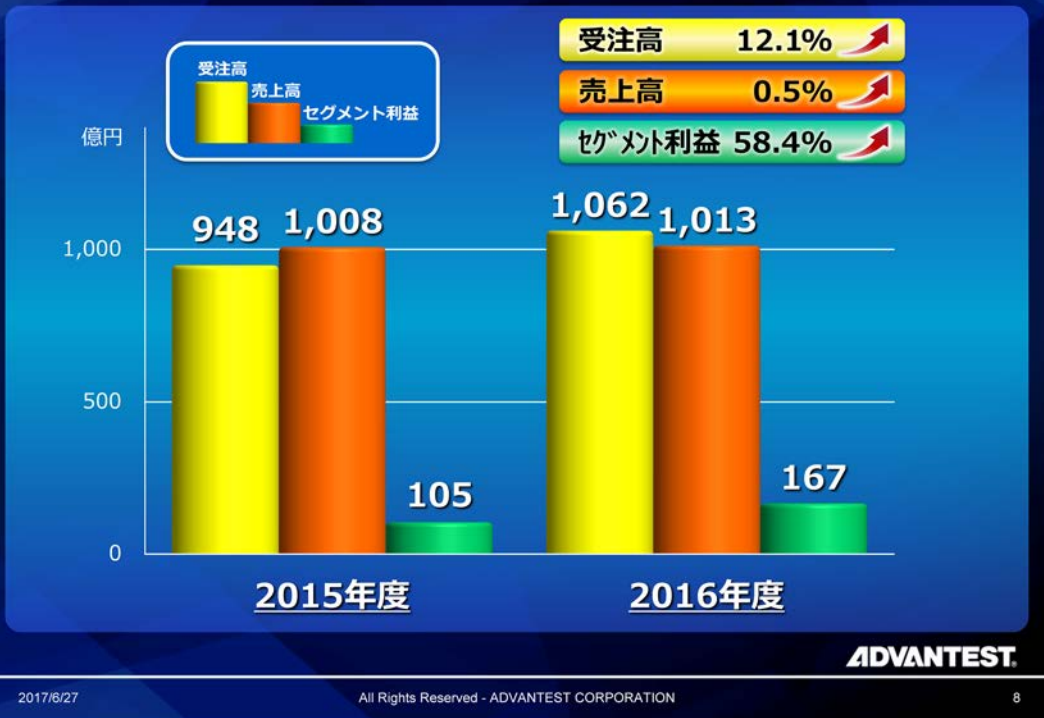


次に部門別の状況についてご説明いたします。

半導体・部品テストシステム事業部門では、非メモリ半導体用テストシステム事業は、スマートフォン向けの半導体増産の動きを背景に、第3四半期まで堅調に推移しました。しかし第4四半期に入ってから、モバイル機器の在庫調整の影響からテストシステムの需要が伸び悩み、売上高は前期を若干下回りました。

メモリ半導体用テストシステム事業は、期初は顧客の投資が伸びませんでした。夏場以降に事業環境が好転し、下期だけで前年度の実績を超える受注高を獲得するなど、好調に推移しました。

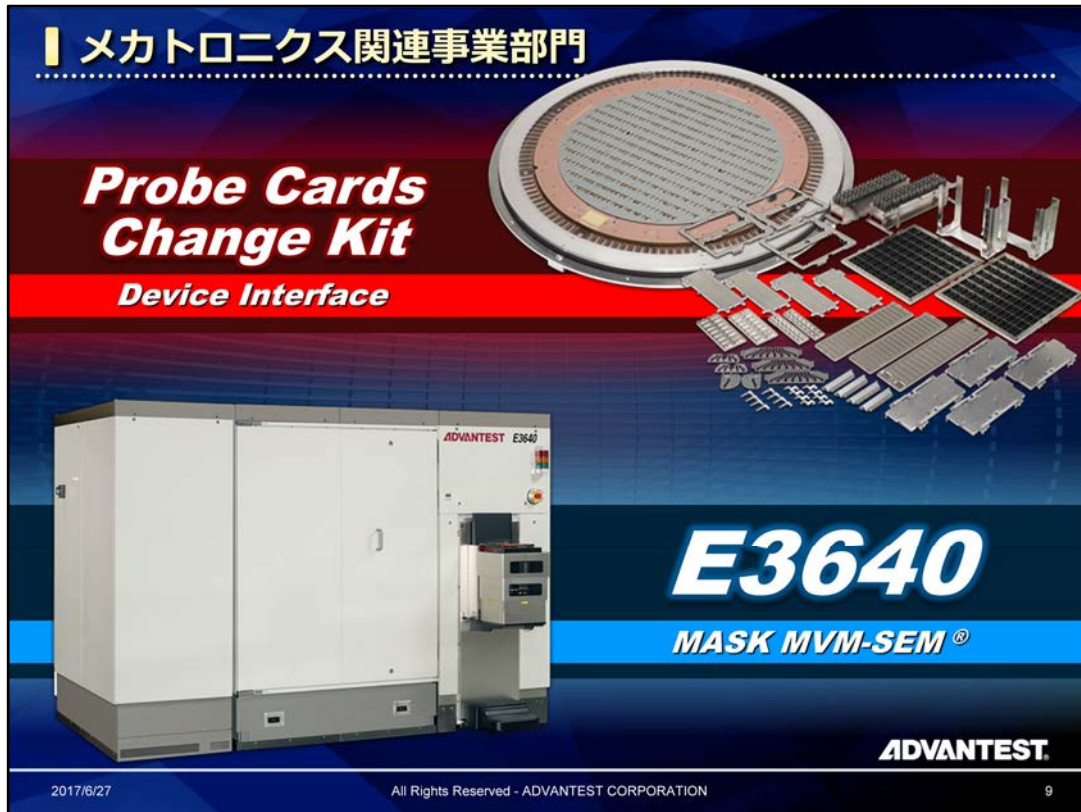
半導体・部品テストシステム事業部門



以上により、
当部門の受注高は前期比12.1%増の1,062億円、
売上高は前期比0.5%増の1,013億円、
セグメント利益は前期比58.4%増の167億円となりました。

メカトロニクス関連事業部門

**Probe Cards
Change Kit**
Device Interface



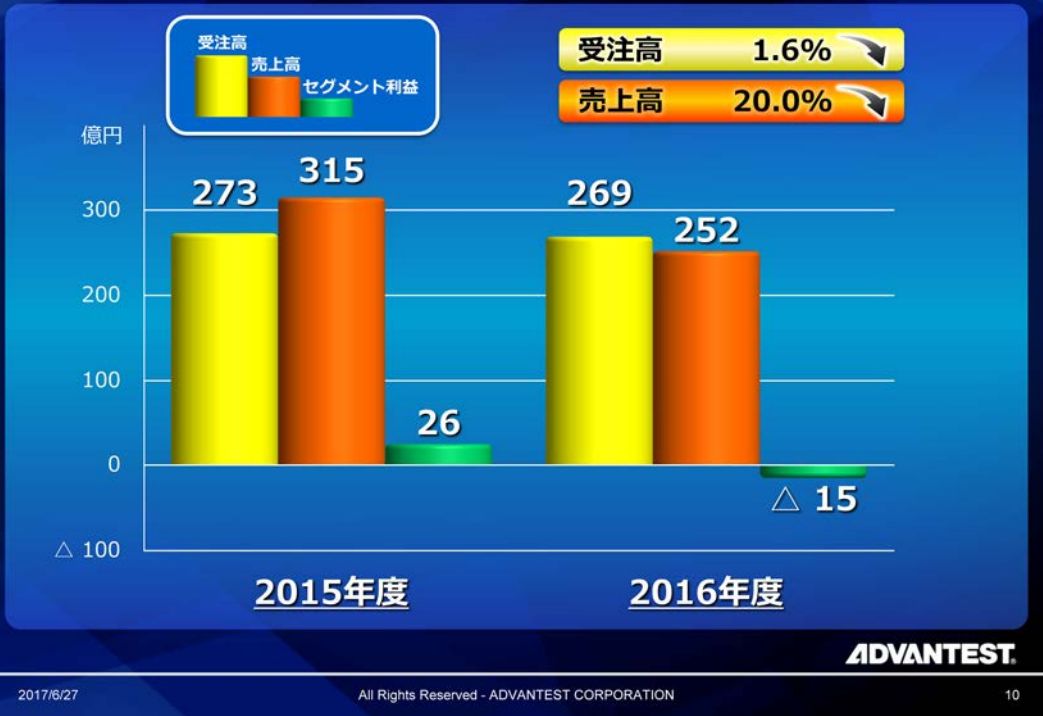
E3640
MASK MVM-SEM®

ADVANTEST

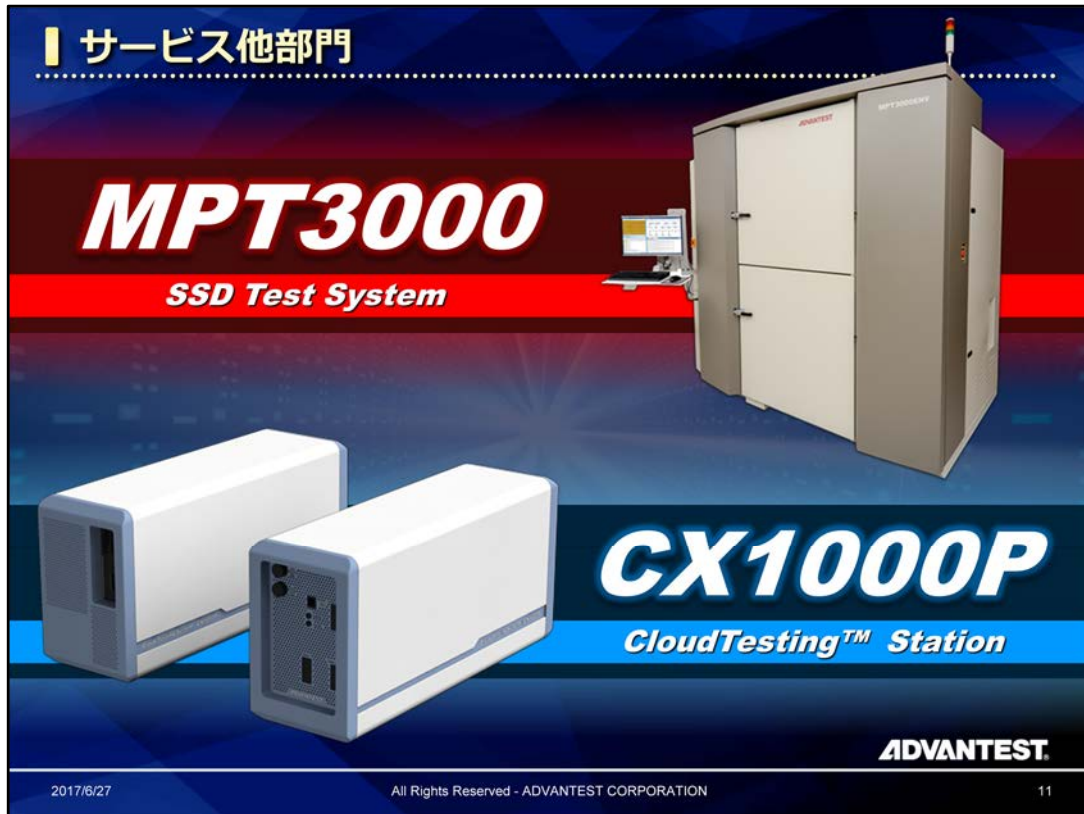
2017/6/27 All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION 9

メカトロニクス関連事業部門では、
フォトマスク検査装置の新規需要が落ち込んだことで、
ナノテクノロジー事業が通年振るいませんでした。
デバイス・インタフェース事業も、受注高は前期を上回りましたが、
期初のDRAM半導体の投資抑制の影響により
売上高は前期を下回りました。

メカトロニクス関連事業部門

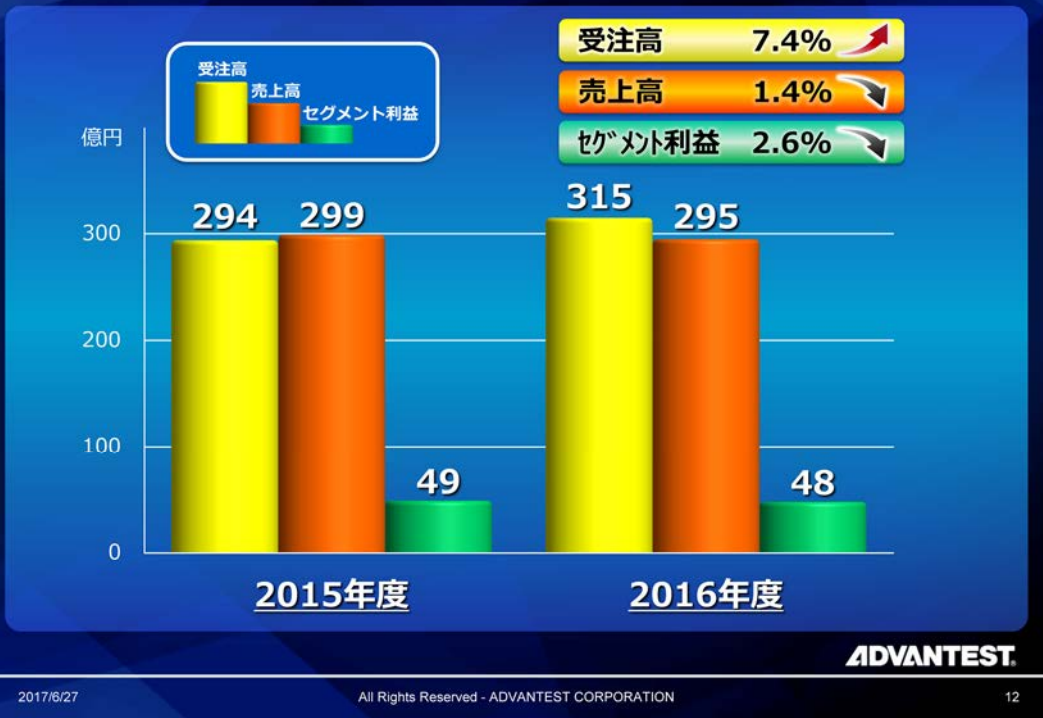


以上により、
当部門の受注高は前期比1.6%減の269億円、
売上高は前期比20.0%減の252億円、
セグメント利益は前期より41億円悪化し、
15億円の損失となりました。

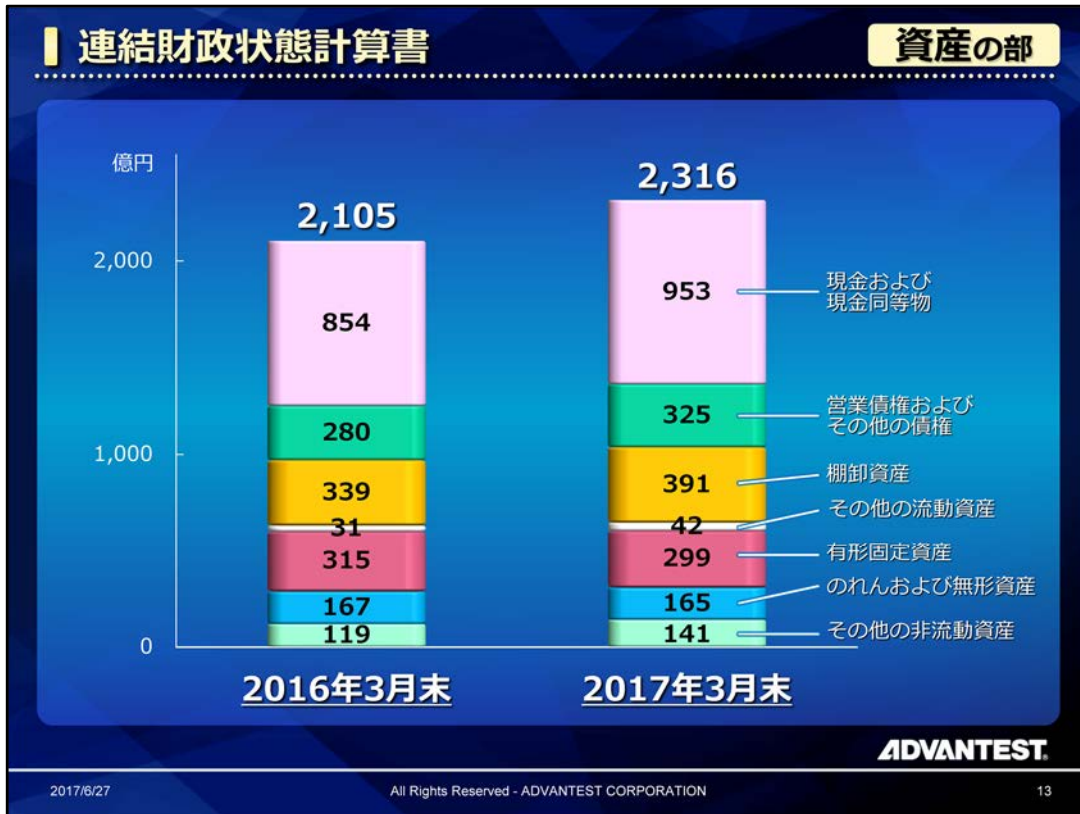


サービス他部門では、
半導体メーカー各社の生産ラインの活況を背景に、
フィールドサービスに対する需要が堅調でした。
しかしながら、円高による収益押し下げの影響を受けました。

サービス他部門

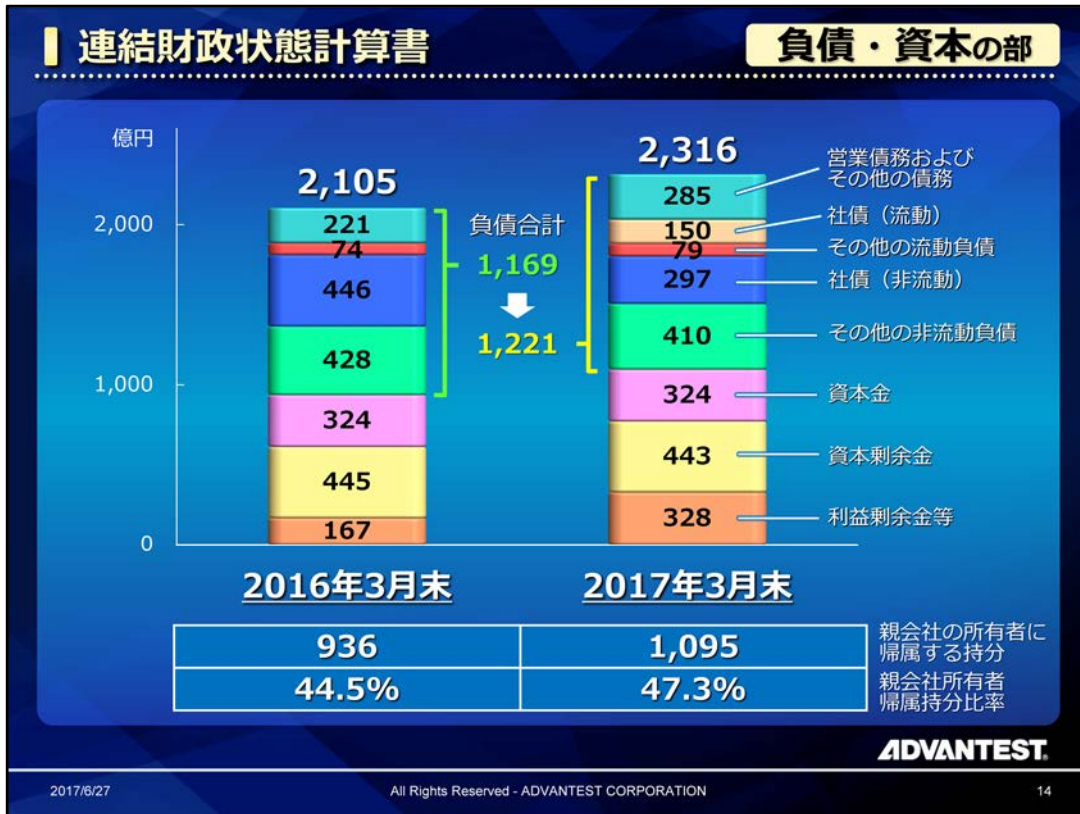


以上により、
当部門の受注高は前期比7.4%増の315億円、
売上高は前期比1.4%減の295億円、
セグメント利益は前期比2.6%減の48億円となりました。



続きまして、招集ご通知36ページに記載の連結財政状態計算書についてご報告申し上げます。

当期末の総資産は、前期末比で212億円増加し、2,316億円となりました。この主な要因は、現金および現金同等物が99億円、棚卸資産が52億円、営業債権およびその他の債権が44億円増加したことなどによります。



負債合計は、
営業債務およびその他の債務が64億円増加したことなどにより、
前期末比で53億円増加し、1,221億円となりました。

資本合計は1,095億円となり、
親会社所有者帰属持分比率は2.8ポイント増加し、
47.3%となりました。

中間配当金 1株当たり 13円

期末配当金 1株当たり 12円

年間の配当金 1株当たり 25円

ADVANTEST

第75期期末配当金につきましては、
2017年5月22日開催の取締役会において、1株当たり12円と決議し、
本総会の招集通知と併せて、配当金関係書類をお送りしました。
これにより、中間配当金を加えた年間の配当金は
1株当たり25円となります。

2017年度業績予想

(億円)

	2016年度 実績	2017年度 予想	前年度比
受注高	1,647	1,750	+6.3%
売上高	1,559	1,720	+10.3%
営業利益	139	180	+29.4%
当期利益	142	150	+5.6%

※ 為替前提：1米ドル=110円、1ユーロ=120円

ADVANTEST

2017/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

16

まず、2017年度の業績ですが、
各事業の見通しを踏まえ、

受注高 1,750億円

売上高 1,720億円

営業利益 180億円

当期利益 150億円

と予想しています。

半導体・部品テストシステム事業

非メモリ・テスト

- スマートフォン在庫調整／新機種切替えによる設備投資の活発化、販売ペースの回復
- 液晶／有機ELパネル関連テスト需要増

メモリ・テスト

- 3D NANDの量産拡大が市場を牽引
- 市場増加分の過半を獲得
- DRAM向けテストの置き換えによる需要

生産体制を整備し需要に対応

ADVANTEST

2017/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

17

事業ごとに見ていきます。

まず、半導体・部品テストシステム事業です。

非メモリ・テスト事業では、2017年度の市場は前年度より10%程度縮小すると見込んでいます。足元ではロジック向けテストの新規設備投資は活気がありませんが、中国スマートフォンの在庫調整が終わり、新機種への切替えが進めば、設備投資が活発化し、販売ペースも回復すると期待しています。

ロジック向け以外では、液晶／有機ELパネル関連のテストが好調ですが、さらなる受注拡大に努めます。

メモリ・テスト事業では、2017年度の市場は、3D NANDの量産拡大が牽引し、前年度より約25%増加すると見込んでいます。生産能力増強のため、NANDフラッシュ向けテストへの設備投資が見込まれます。他社との競争が激化する中で、当社は拡大する市場の過半の獲得を目指します。

DRAM向けテストは、デバイス市場の成長、デバイス量の増加による需要に加え、古いテストの交換による需要が見込まれ、NAND同様に前年度以上の売上を見込んでいます。

半導体・部品テストシステム事業では、今後の市場動向を的確に捉え、機会損失が起きないように、しっかりとした生産体制を整えて、需要に十分に対応していきます。

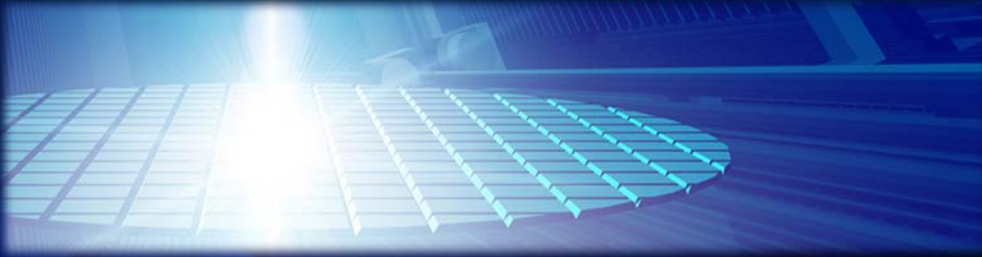
メカトロニクス関連事業

テスト・ハンドラ/デバイス・インタフェース

- メモリ・テスト需要増に伴う需要増加による売上拡大

ナノテクノロジー

- 先端ノード向けの製品開発



ADVANTEST

2017/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

18

メカトロニクス関連事業では、メモリ・テストの需要の伸びに伴い、テスト・ハンドラやデバイス・インタフェースの売上を伸ばしていきます。

ナノテクノロジー製品については、フォトマスク用検査装置などの需要が停滞しており、前年並みの水準を見込んでいます。2018年度以降、先端ノード向けの製品が必要になる見通しであるため、開発を進めていきます。

サービス他事業

フィールドサービス

- 堅調な需要による堅実な売上

SSDテスト

- 製品ポートフォリオの充実
- 売上拡大に向けた開発体制と販売体制の整備



ADVANTEST

2017/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

19

サービス他事業では、
フィールドサービスの需要は堅調に推移しており、
今後も堅実な売上確保に努めます。
SSDテストは今後の成長を期待している分野で、
さまざまなプロトコルに対応した製品ポートフォリオの充実に
努めています。
今後、売上拡大に向けた開発体制と販売体制を整えていきます。

Ⅰ 当社の取り組み

- IoTや自動走行車、AIや大規模データセンタ等によるデジタル革命が進行中

- 半導体の高速化、複雑化
- 設計製造プロセスの長期化
- 高度な信頼性の要求
- テストコスト

- さらなるテストの高性能化
- 半導体の設計から量産販売までの期間を短縮するトータルソリューションの提供

- **中長期的な成長につながる研究開発投資、事業体制整備、生産体制最適化の積極的な推進**

ADVANTEST

2017/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

20

最後に、テスト市場の変化についてご説明します。

現在、IoTや自動走行車、AIや大規模データセンタなどによるデジタル革命が進行中です。

その動きはあらゆる方面に半導体を浸透させるとともに、半導体に、高速化・複雑化、信頼性を要求するようになります。

一方で、半導体の設計や製造プロセスは長期化する傾向にあります。また、歩留まりの改善や信頼性の保証などの難しさも増してきています。さらにテストコストが重要視されています。

そうした半導体業界の課題解決要求に応えるため、当社は、テストの高性能化を図るだけでなく、テストプロセス全体を最適化し、半導体の設計から量産販売までの期間短縮を加速させるようなテストのトータルソリューションを提供していきます。

そして、テストニーズの将来の変化を見据え、中長期的な成長につながる研究開発投資、事業体制強化、生産体制最適化を、積極的に推進していきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

ご注意

◆会計基準について

本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準(IFRS)に基づいて作成しています。

◆将来の見通しに関する記述について

本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。

これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

ADVANTEST